

「あまり一般的ではない常識」

日本に来てから、自分でも気づかなかった自分の側面を見つめ直すきっかけがありました。私は自分自身の「常識」つまり日常の行動を導く見えない羅針盤を問い直すようになったのです。そして、その常識はすべての人間に共通しているわけではない、ということにも気づきました。

そもそも「常識」とは、みんなが当然と考えていること、あるいは少なくとも大多数が受け入れている考え方や習慣を指します。しかし実際には、それは社会的な文脈に育まれた信念や前提にすぎません。

だからこそ常識は国によって、地域によって、世代によって、さらには同じ国の中でも状況によって大きく異なる、非常に変わりやすい性質を持っているのです。

私にとって自然だったコロンビアでの当たり前前のことが、日本ではまったく通用しないこともあります。

小さい頃からよく聞いていた言葉に「ローマ  
 ではローマ人のように振る舞え」というもの  
 があります。私はその言葉をいうも賢いと思  
 っていました。他の文化に合わせることは、  
 敬意を示す行動だと理解していたからです。  
 でも、頭では分かっていたても、それを実際に  
 実践するのは、時に少し難しいことだと実感  
 しています。  
 たとえばコロンビアでは、3人か4人が一緒  
 にレストランに行き、1人か2人だけが料理  
 を注文し、残りの人はただ付き添うだけとい  
 うのはよくあることです。しかし日本では、  
 そのような行動は奇妙、あるいは失礼にさえ  
 見えるかもしれません。  
 ある日、友達に付き添って食事に行。たとき、  
 店員さんが二人やっきてきて、丁寧ながらもし  
 っかりとした口調で、注文するか店を出るか  
 を求められました。おそらく私は失礼な態度  
 を取っていると思われたのでしよう。私はそ  
 のとき少し冷たく扱われたと感じました。

でもそれは同時に自分の背景を見つめ直すき  
っかけにもなったのです。  
その出来事の後、私はコンピュータでの習慣を  
新しい目で見直すようになりました。たとえ  
ば授業「あと15分です」は「まだ15分  
もある、大切に使おう」という意味です。  
その時間に対する正確さと、細部にまで及ぶ  
真剣さには深く感動しました。東京への最初  
の旅行中、国費留学生歓迎レセプションの  
イベント中に地下鉄のICカードを失くして  
しまいました。もう戻ってこないだろうと思  
っていたのですが、数日後、大阪の学校に  
郵送で届いたのです。誰かが私の通った駅を  
調べ、学校を特定し、送り返してくれたので  
した。その行動に心を打たれました。カード  
そのものよりも、見知らぬ誰かが「正しいこ  
とをするためだけに」そこまでの努力をして  
くれたことに、深く感謝しました。  
そのとき、子どもの頃に聞いた言葉をふと思  
い出しました。「自分がしてもらいたいこと

を、他の人にもしてあげなさい。その親切な  
人からの言葉を知っていたかどうかはわかり  
ませんが、その行動こそが、まさにこの言葉  
を体现していたのだと思います。  
これこそが、日本から私が学んだ最も大切な  
教訓のひとつです。個人の責任の重み、他者  
への思いやり、そして日常の中での継続的な  
努力の価値。そうした価値観は、目に見える  
形では表れにくいかもしれませんが、日々の  
行動や態度に静かに表れているのです。  
こうした違いのかげで、私は自分自身の文化  
を新たな視点で見つめ直し、その強みと限界  
の両方を理解することができました。時には  
違和感や戸惑いもありましたが、それらはす  
べて自分を深める糧となりました。  
コロンビアでは、人との距離がとて近く、  
街中ですぐに会話が生まれます。知らない人  
同士でも、バスの中や市場で自然に話しかけ  
るのが普通です。そうした温かさや開放性は、  
日本の丁寧さとはまた違った魅力です。日本

に来てからは、そろい、たコロンビ了的の良さ  
も、より強く感じるようになってきました。そし  
て、その違いを認め合い、どちらか一方を  
否定するのではなく、どちらの良さも尊重す  
ることの大切さに気づきました。  
今も私は学び続けています。それは自分の  
習慣を捨てるためではなく、それらを豊かに  
するためです。自分の「常識」を異なるもの  
とぶつけることで、私は今、新しい感覚――  
少しだけ普通ではなく、より深く考えられた、  
そして少しだけ自分らしい――そんな  
「常識」を育てつつあるのかもしれません。  
これからの人生を導いてくる新たな羅針盤に  
なると信じています。